

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養 専門課程	英語本科	夜・通信	180	320	
	英語科	夜・通信	360	160	
	国際エアライン科	夜・通信	360	160	
商業実務 専門課程	ブライダル科	夜・通信	480	160	
	国際ホテル科	夜・通信	360	160	
(備考) 英語本科は令和2年度新設学科のため、実務経験のある教員等による授業時数は、1年生の授業時数のみ記載					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.ncfl.ac.jp/school/syugakusien.html

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人電波学園公式 Web サイト「事業報告書」 http://www.denpa.jp
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	令和元年 10月1日～ 令和5年 9月30日	労務・法務担当
非常勤	税理士	令和元年 10月1日～ 令和5年 9月30日	財務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校
設置者名	学校法人電波学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)の作成にあたっては、本校として「シラバス作成ガイドライン:本校URLにて公開」を設定し、そのガイドラインに基づいて各教員が授業計画を作成している。 <p>シラバス作成の基本方針としては、重視することとして①学生の目線に立って分かり易い記述とする。②学習の見通しが立てられるように具体的な記述とする。③授業計画は常に見直し、適時その内容を反映する。④実務経験のある教員による授業科目については、教員の実務経験やそれを授業にどう活かしているかを講義概要等の中で明示することとする。なお、シラバスに盛り込む共通項目は以下の通りとする。</p> <p>①授業科目の基本情報。②担当教員(実務経験のある教員か一般教員かなど)。③学修内容。④到達目標。⑤授業の方法。⑥成績評価の方法と基準。⑦授業時間以外に必要な学修の具体的内容。⑧各コマにおける授業計画。⑨使用教材・教具(特にテキスト等)。⑩履修に当たっての留意点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)は、毎年5月連休明けを目途に本校ホームページにて公開する。 	
授業計画書の公表方法	http://www.ncfl.ac.jp/school/syugakusien.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学修成果の評価については、各科目担当者がそれぞれの各科目の授業計画（シラバス）に <p>①成績評価の方法及び基準。②実習、演習科目の場合は、実技試験の評定と通常の授業時の評定（平常点）とをどのような割合で成績評価とするかなどを盛り込むこととしている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績の評価については、全科目100点満点で評定し、その平均点で各学科内における各自の順位（位置）を示し、それと共に標準偏差等統計学上の手法を用いながら、各学科ごとの、あるいは各科目ごとの成績分布状況を把握し、本校URL上にて公開している。 	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.ncfl.ac.jp/school/syugakusien.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・卒業の認定に関しては、本校URL上に公開している「3つのポリシー」の内の「ディプロマポリシー（卒業認定、卒業証書授与の方針）」に基づき、進級・卒業に必要な条件（出席率、各科目の評定状況等）が教務規定として、入学時に全入学生に配付される「学生便覧」に明示されており、本校URLにおいても公開されている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<http://www.ncfl.ac.jp/school/syugakusien.htm>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人電波学園公式 Web サイト http://www.denpa.jp
収支計算書又は損益計算書	学校法人電波学園公式 Web サイト http://www.denpa.jp
財産目録	学校法人電波学園公式 Web サイト http://www.denpa.jp
事業報告書	学校法人電波学園公式 Web サイト http://www.denpa.jp
監事による監査報告（書）	学校法人電波学園公式 Web サイト http://www.denpa.jp

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	英語本科 (令和2年度新設学科)	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼夜	3840 単位時間	2560 時間	1408 時間	時間	時間	時間
	昼間		3968 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		21人	0人	5人	14人	19人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ15回30時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。なお、授業は一般教養・専門知識等を学ぶ座学と、実際の場面に応じた英会話力等を学ぶ演習とに分かれている。
成績評価の基準・方法
（概要）年2回（前期、後期）定期試験を実施し100点満点で採点し、60点以上を合格とする。また、取得した点数により S：100～90点、A：89～80点、B：79～70点、C：69～60点、D：60点未満 と各科目ごとに評価している。ただし、不合格科目については、各期末ごとに再試験を実施し、60点以上の場合に60点（C）と評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定基準は教務規定に規定されており、①学年を通じて出席すべき日数の5分の4以上出席していること。②定期試験又は再試験にて必修全科目を受験し、合格（評価60点以上）していること。
学修支援等

(概要) 各クラスごとに担任及び担任を補佐する副担任を配置し、各学生個々の修学能力、修学速度に応じて授業後も個別指導を実施し、全員が目標レベル(英検2級以上合格、TOEIC600点以上)に到達できるよう支援する。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 海外での就職及び、英語を活用する職業に就くことを目標とする			
(就職指導内容) 4年次前期(4月以降)本校にて企業説明会等を実施し、企業研究を行わせる。それと共に自己分析を進めさせて各自の長所、短所を知り、エントリーシート作成に繋げる。その後、担任は受験する企業ごとに最も適した面接指導を実施し、就職試験合格まで導く。なお、海外提携大学への編入生についても、他の学生同様に就職活動を支援する体制を整える。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 目標とする資格は ①実用英語技能検定2級合格 ②TOEIC600点以上 ③小学校英語指導者資格取得 ④留学先大学への編入学			
(備考) (任意記載事項) ・本学科は令和2年度新設学科であり本年は初年度であるため、1年生のみ在籍。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 各担任が前期・後期ごとに学生との面談を実施し、状況把握に努めると共に、保護者と連絡を密にしながら学校と家庭が連携して学生の教育指導にあたる。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養 専門課程	英語科	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1800 単位時間	900 時間	1440 時間	時間	時間	時間
			2340 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	82人	2人	5人	14人	19人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ15回30時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。なお、授業は一般教養・専門知識等を学ぶ座学と、実際の場面に応じた英会話力等を学ぶ演習とに分かれている。
成績評価の基準・方法
（概要）年2回（前期、後期）定期試験を実施し100点満点で採点し、60点以上を合格とする。また、取得した点数により S：100～90点、A：89～80点 B：79～70点、C：69～60点、D：60点未満 と各科目ごとに評価している。ただし、不合格科目については、各期末ごとに再試験を実施し、60点以上の場合に60点（C）と評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定基準は教務規定に規定されており、①学年を通じて出席すべき日数の5分の4以上出席していること。②定期試験又は再試験にて必修全科目を受験し、合格（評価60点以上）していること。
学修支援等
（概要）各クラスごとに担任及び担任を補佐する副担任を配置し、各学生個々の修学能力、修学速度に応じて授業後も個別指導を実施し、全員が目標レベル（英検2級以上合格）に到達できるようにしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33人 (100%)	2人 (0%)	26人 (87.0%)	5人 (13.0%)
（主な就職、業界等）セイハネットワーク株（英語教育業界）、ANA中部空港株、ANA成田エアポートサービス株、株JALカーゴサービス（航空業界）、ザ・テラスホテルズ株、株ホテルブエナビスタ（ホテル業界）			
（就職指導内容）1年次後期（10月以降）本校にて企業説明会を実施し、企業研究を行わせる。それと共に自己分析を進めさせて各自の長所、短所を知り、エントリーシート作成に繋げる。その後、担任は受験する企業ごとに最も適した面接指導を実施し、就職試験合格まで導く。			

(主な学修成果(資格・検定等)) ①実用英語技能検定2級合格者数13名、②TOEIC600点以上13名、③小学校英語指導者資格9名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85人	10人	11.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、勉強意欲の喪失、家計状況の悪化		
(中退防止・中退者支援のための取組) 各担任が各期ごとに学生との面談を実施し、状況把握に努めると共に、保護者と連絡を密にしながら学校と家庭が連携して学生の教育指導にあたっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養 専門課程	国際エアライン科	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1740 単位時間	1440 時間	420 時間	240 時間	時間	時間
			2100 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	119人	1人	4人	23人	26人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ15回30時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。なお、授業は一般教養・専門知識等を学ぶ座学と、実際の場面に応じた英会話力等を学ぶ演習、接客対応力等を身につける実習とに分かれている。
成績評価の基準・方法
（概要）年2回（前期、後期）定期試験を実施し100点満点で採点し、60点以上を合格とする。また、取得した点数により S：100～90点、A：89～80点、B：79～70点、C：69～60点、D：60点未満 と各科目ごとに評価している。ただし、不合格科目については、各期末ごとに再試験を実施し、60点以上の場合に60点（C）と評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定基準は教務規定に規定されており、①学年を通じて出席すべき日数の5分の4以上出席していること。②定期試験又は再試験にて必修全科目を受験し、合格（評価60点以上）していること。
学修支援等
（概要）各クラスごとに担任及び担任を補佐する副担任を配置し、各学生個々の修学能力、修学速度に応じて授業後も個別指導を実施し、全員が目標レベル（英検2級以上合格、接客英語力を身につけるなど）に到達できるようにしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
67人 (100%)	1人 (0%)	63人 (98.4%)	3人 (1.6%)
（主な就職、業界等）全日本空輸(株)、ANA成田エアポートサービス(株)、(株)JALカーゴサービス（航空業界）			
（就職指導内容）1年次後期（10月以降）本校にて企業説明会を実施し、企業研究を行わせる。それと共に自己分析を進めさせて各自の長所、短所を知り、エントリーシート作成に繋げる。その後、担任は受験する企業ごとに最も適した面接指導を実施し、就職試験合格まで導く。			

(主な学修成果(資格・検定等)) ①実用英語技能検定2級合格者数48名、②TOEIC600点以上23名、③サービス介助士60名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
116人	4人	3.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、勉強意欲の喪失、家計状況の悪化		
(中退防止・中退者支援のための取組) 各担任が各期ごとに学生との面談を実施し、状況把握に努めると共に、保護者と連絡を密にしながら学校と家庭が連携して学生の教育指導にあたっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	ブライダル科	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1830 単位時間	720 時間	240 時間	1230 時間	時間	時間
			2190 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	121人	0人	5人	6人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ15回30時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。なお、授業は一般教養・専門知識等を学ぶ座学と、実際の場面に応じた英会話力等を学ぶ演習とに分かれている。
成績評価の基準・方法
（概要）年2回（前期、後期）定期試験を実施し100点満点で採点し、60点以上を合格とする。また、取得した点数により S：100～90点、A：89～80点 B：79～70点、C：69～60点、D：60点未満 と各科目ごとに評価している。ただし、不合格科目については、各期末ごとに再試験を実施し、60点以上の場合に60点（C）と評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定基準は教務規定に規定されており、①学年を通じて出席すべき日数の5分の4以上出席していること。②定期試験又は再試験にて必修全科目を受験し、合格（評価60点以上）していること。
学修支援等
（概要）各クラスごとに担任及び担任を補佐する副担任を配置し、各学生個々の修学能力、修学速度に応じて授業後も個別指導を実施し、全員が目標レベル（英検2級以上合格）に到達できるようにしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
61人 (100%)	0人 (0%)	61人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等）(株)ベストブライダル、クレールコーポレーション、出雲殿（ブライダル業界）、伊勢志摩マネージメント、リゾートトラスト、グランコート名古屋、マリオットアソシアホテル（ホテル業界）			
（就職指導内容）1年次後期（10月以降）本校にて企業説明会を実施し、企業研究を行わせる。それと共に自己分析を進めさせて各自の長所、短所を知り、エントリーシート作成に繋げる。その後、担任は受験する企業ごとに最も適した面接指導を実施し、就職試験合格まで導く。			

(主な学修成果(資格・検定等)) ①ブライダルコーディネーター技能検定3級合格者数44名、②サービス介助士61名、③秘書技能検定2級43名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
134人	14人	10.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、勉強意欲の喪失、家計状況の悪化		
(中退防止・中退者支援のための取組) 各担任が各期ごとに学生との面談を実施し、状況把握に努めると共に、保護者と連絡を密にしながら学校と家庭が連携して学生の教育指導にあたっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	国際ホテル科	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1890 単位時間	1350 時間	240 時間	360 時間	時間	時間
			1950 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	98人	5人	4人	20人	24人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ15回30時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。なお、授業は一般教養・専門知識等を学ぶ座学と、実際の場面に応じた英会話力等を学ぶ演習とに分かれている。
成績評価の基準・方法
（概要）年2回（前期、後期）定期試験を実施し100点満点で採点し、60点以上を合格とする。また、取得した点数により S：100～90点、A：89～80点 B：79～70点、C：69～60点、D：60点未満 と各科目ごとに評価している。ただし、不合格科目については、各期末ごとに再試験を実施し、60点以上の場合に60点（C）と評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定基準は教務規定に規定されており、①学年を通じて出席すべき日数の5分の4以上出席していること。②定期試験又は再試験にて必修全科目を受験し、合格（評価60点以上）していること。
学修支援等
（概要）各クラスごとに担任及び担任を補佐する副担任を配置し、各学生個々の修学能力、修学速度に応じて授業後も個別指導を実施し、全員が目標レベル（英検2級以上合格）に到達できるようにしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
43人 (100%)	0人 (0%)	43人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等）帝国ホテル、ホテルニューオータニ、マリオットアソシアホテル（ホテル業界）			
（就職指導内容）1年次後期（10月以降）本校にて企業説明会を実施し、企業研究を行わせる。それと共に自己分析を進めさせて各自の長所、短所を知り、エントリーシート作成に繋げる。その後、担任は受験する企業ごとに最も適した面接指導を実施し、就職試験合格まで導く。			

(主な学修成果(資格・検定等)) ①実用英語技能検定2級合格者数5名、②レストランサービス技能検定29名、③サービス介助士12名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
104人	8人	7.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、勉強意欲の喪失、家計状況の悪化		
(中退防止・中退者支援のための取組) 各担任が各期ごとに学生との面談を実施し、状況把握に努めると共に、保護者と連絡を密にしながら学校と家庭が連携して学生の教育指導にあたっている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他 (年間)	備考 (任意記載事項)
英語本科	200,000 円	800,000 円	250,000 円	
英語科	200,000 円	800,000 円	250,000 円	
国際エアライン科	200,000 円	800,000 円	250,000 円	
ブライダル科	200,000 円	850,000 円	250,000 円	
国際ホテル科	200,000 円	850,000 円	250,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ncfl.ac.jp		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) ・学校の評価者を学校が専任し、これら評価者からなる学校関係者評価委員会を組織し、実施する。なお、学校は事務局として主に学校関係者評価委員会 (評価者) へ情報提供を行うこととする。 ・評価項目としては①教育理念・目標 ②学校運営 ③教育活動 (教育課程表等の見直し等を含む) ④学修成果 (資格取得状況等) ⑤学生支援 (進学・就職支援等) ⑥教育環境 (学校施設・環境等) ⑦学生の受入れ募集 (外部に対する情報公開状況等) ⑧財務 (安定した財務基盤であるか等) ⑨法令等の遵守 (専修学校設置基準等の遵守等) ⑩社会貢献・地域貢献 (地域社会への貢献度等) ⑪国際交流 (留学生の受入れ・派遣等) などである。なお、学校関係者評価委員については、定員については特に規定せず、在校生の保護者、卒業生の就職先企業、卒業生の代表等からなり、本校職員は委員にはならない。また、毎年7月末に、前年度の学校評価報告書を基にした学校関係者評価委員会による本校の学校評価を本校ホームページ上にて公開しており、同時期にこの結果を基に校長を委員長とする「学校自己点検評価委員会」にて教育の質の向上を図るための改善策等を検討し、実行可能なものから逐次実施する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
国際エアライン科 学生の保護者	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	在校生の保護者
国際多読教育学会 理事	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	学会役員
ANA 中部空港株式会社 総務部 人事課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	企業委員
ザ・グランクレール 統括支配人	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	企業委員
あいちデザイン専門学校 職員	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	卒業生代表 (校友会幹事)

株式会社 アイテック	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	講師派遣企業 センター長
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ncfl.ac.jp		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ncfl.ac.jp
--